

## 小樽市総合博物館所蔵 9.5 ミリ動画資料

大正から昭和初期（1912 年-1945 年）の小樽の繁栄は小樽市総合博物館のホームムービーのコレクションにはっきりと刻まれています。200 以上の映像が小樽の商店街を散策したり、雪かきをしたり、ニシン網を引いたり、蒸気機関車を眺めたりする一般市民の日常生活を描いています。博物館ではアーカイブから厳選した作品を展示しています。

これらのシーンの多くはパテベビーのムービーカメラで撮影されました。パテベビームービーカメラは 1922 年にフランスの映画機器会社パテによって開発された比較的安価で使いやすいアマチュア向けフィルムシステムです。9.5mmフィルムを使用するコンパクトな手回しムービーカメラは標準的なハードカバー本よりも小さく、重さは 500 グラム強でした。

小樽のカメラ店ではフィルム、カメラ、三脚、ホームムービー上映用のプロジェクターなどを販売していましたが、ほとんどの 9.5mmフィルムは現像するため横浜に送らなければいけませんでした。当時、映画製作はお金のかかる趣味だったと思われ、約 200 本のフィルムが残っているということが街の経済的、文化的繁栄を物語っています。